

## 令和元年度 第3回 西条市子ども・子育て会議記録

開催年月日	令和2年2月18日(火)		開会	午後 7時00分
			閉会	午後 8時30分
開催場所	西条市庁舎本館5階 大会議室			
出席委員	会 長	白川 敦子	副会長	森山 昌美
		柳瀬 千香子		村瀬 和代
		三輪 正史		永井 真弥
		谷口 晃		越智 妙子
欠席委員		高瀬 裕介		佐伯 純
		大澤 里香		村上 知溶子
傍聴者		なし		
説明のため出席した者	こども健康部長	近藤 貴和	子育て支援課長	宇高 聡志
	子育て支援課副課長兼 子育て支援係長	小笠原 みちよ	子育て支援課女性係長	玉井 知佐
	保育・幼稚園課課長	越野 美智子	保育・幼稚園課副課長 兼保育・幼稚園係長	真鍋 和弘
	こども健康部副部長 兼健康医療推進課長	越智 伸一郎	健康医療推進課主幹	永井 邦香
	健康医療推進課 母子保健係長	高橋 育子		
事務局職員	子育て企画係長	工藤 博	子育て企画係	林 理紗子
付議事件	1 利用定員の設定に係る意見聴取について 2 第一期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 3 第二期子ども・子育て支援事業計画(案)の策定について 4 その他			

開 会

〈議題協議〉

---

1 利用定員の設定に係る意見聴取について

- 事務局 (資料に基づき説明)
  - 会長 説明があったが、質問や意見はないか。
  - 委員 (意見なし)
- 

2 第一期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

- 事務局 (資料に基づき説明)
  - 委員 放課後児童健全育成事業には、いわゆる発達障がいの子どもは含んでいないのか。
  - 事務局 発達障がいのある子どももいます。
  - 委員 私立で障がいのある子どもをみるような施設が最近いくつかできているようだが、その子どもたちはここにいけないから、そのようなところに行くのだと思う。それに関する線引きはどのようにになっているのか。
  - 事務局 放課後等デイサービスを利用しながら児童クラブも利用する人、放課後等デイサービスだけを利用する人、児童クラブだけを利用する人など、実際はケースによって様々です。
  - 委員 発達障がいがあるから見るできないという訳ではないということか。
  - 事務局 そうです。
- 

3 第二期子ども・子育て支援事業計画(案)の策定について

- 事務局 (資料に基づき説明)
- 委員 素晴らしい計画だとは思いますが、これを実際に動かすためのスタッフはいるのか。先ほどハイリスクの人が増えてきたという話があったが、保護者も含めて発達障害の子どももいることでいろいろ対応すべきことがあり、スタッフが以前より疲れると思う。「この勉強をなさい、あの勉強をなさい」ということによ

って、スタッフがのびのびと働けるのか、スタッフ不足が起きないかということ  
を心配しているが、そのあたりのフォローはしているのか。

- **事務局** 各事業の推進については、スクラップ&ビルドを基本としているものの、スクラップできる事業は子育てに関しては少なく、今のところは見当たらないのが現状です。今いるスタッフで出来ることをしっかりやっ払いこうと進めています。

児童クラブなどで支援を要する児童がいる場合は、既定の支援員に加えて、そうした子どもを支援するために、支援員を追加配置するなどして対応しています。まだまだ十分ではないところもありますが、できるだけそのような人的補充を工夫しながら、現場の職員に負担をかけすぎないように対応をしている状況です。支援を要する子どもにもいろいろなタイプがあるので、随時、一件一件個別に対応していけたら良いと考えております。

- **委員** 保育士などが、せつかく資格を持っているのに大変だからと職から離れたりするの少しもったいないと思ったので、その辺りをぜひフォローしていただきたい。

- **委員** 以前、この計画案について、いろいろな意見を言わせてもらったが、このような充実した冊子ができていること、毎年毎年次々と素晴らしいものが次の段階として出来上がっていることに感心し、読ませてもらっている。

小学校の放課後に、特別支援学級に通っている発達障がい子どもたちを学校の校門の中まで車を入れて迎えにくる私立の児童クラブのようなシステムの施設がある。そこは2年ほど前から動いていて現在は定着しており、素晴らしい事業でありがたいと思っている。ただ、母親の声や児童クラブの先生たちの声などをいろいろ聞くと、そのように至れり尽くせりの対応が本当に良いのかは疑問だ。児童クラブでは、そのような子どもたちを専門的に隔離せず、その他の大勢の学年も様々な子どもたちと一緒に過ごせる安全で安心な場所として、働いている母親たちのために子どもたちを見てくれている。

児童クラブを学校の延長上として捉え、宿題をしっかりしてもらってから家に帰らせてほしいなどの要望もたくさんあるが、多少足りないぐらいの水準で、先生たちが安全で安心な対応をし、子どもたち自身がそこで揉まれて生きる力を身につけていくことが大事だ。

昔の家庭は、近所におじさん、おばさんがいて、家に帰ってきて、様々な危なっ

かしいところを注意されたり叱られたりという生活があったはずだ。学校とは違った空間で、児童クラブの先生たちが、お母さんやおばあちゃん役として、子どもたちと接する生活の場が実は大事だ。そのような中で子どもたちは、自分たちの体験から学んで自立していくのではないかと思う。

---

#### 4 その他

○ **会長** 他にご意見等はないか。

○ **委員** 新しく建物が変わった児童発達支援センターひまわりは素晴らしい施設だ。そこに、就学前の発達障がいの子どもたちがスクールバスで通い、たくさんのスタッフの方々が対応していた。社会福祉協議会の管轄で、発達障がいの子どもたちの就学前教育施設になっているが、市役所の子育て支援課等との連携はあるのか。

子どもたちは軽度の症状で、パニック状態になるような子どもはおらず、声をかけたり、一緒に遊んだりした。遊具もびっくりするような素晴らしいものがたくさん備えてあり、木の香りがして、通路も非常に広くて、太陽の光もさんさんと注いでおり素晴らしい。

一人ひとりが興奮したりパニック状態になった時の対応のために、各部屋にブースのようなものも作っており、本当に素晴らしい施設だと思ったが、市役所の管轄として連携等はあるのか。

○ **事務局** 個々の事業で大きく連携しているところはないが、障がい児ということでは、社会福祉課がつながりがあると思います。

子育て支援課の関係でいうと、家庭児童相談員が対応している事案について、場合によっては担当者レベルで、ひまわりと情報を共有したり、ケース検討会などの相談をしているということは把握しています。

○ **委員** 計画案 43 ページの 75・76・77 番あたりが私の担当だが、公民館などを中心に、餅つきをしたり、とうどさんをしたり、七草をしたり、しめ飾りを作ったりしているが、なぜか子どもが集まらない。そうした活動について、どこの団体が行っているかはどうでもいいが、地域のおじさん、おばさんたちが子どもたちと遊びたがっているということ、このような活動をしているということ、スペースがあれば記載してほしい。

餅つきは100人くらい来るが、七草は3人の参加だった。費用はいらないが、イベ

ントを行っても来てくれない。どこかにスペースがあれば、場所はどこでも良いので、地域のおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんがみんなと遊びたがっているという内容を記載してもらえば、西条らしくなり私たちの事業も充実するので、記載をお願いしたい。

地域みんなという雰囲気で行いたい。学校の先生も愛護班もPTAも老人会も婦人会もあるので、みんなで取り組みたいという雰囲気になっている。

- 委員 ちゃんと宣伝したのか。
- 委員 チラシもビラも配った。
- 委員 知らなかった。とうどさんなどは行きたかった。
- 委員 とうどさんは神拝地区ではやっていないが、大町地区など、とうどさんをしている地区もある。
- 会長 私もその活動を知らなかった。すごく良いことだと思う。
- 委員 ネットワークとしては健全育成協議会でしょうとしているが、当然、愛護班や婦人会等みんなが入っており、主催は誰というのはやめようと思っている。もちろん責任を取る団体はあるが、地域のおじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんという形で考えている。また、「地域」も外そうと思っている。
- 委員 普段からいろいろな場面・立場で子どもたちのことを支援していただき、本当に嬉しく思う。先ほど、地域のイベントになかなか子どもたちが集まらないという話があったが、私が在籍する小学校の周りでも、公民館で様々な活動を催しており、子ども会活動の中での地域のイベント、愛護班によるイベント、PTAによるイベントなど、様々な団体が活動していただいている。

西条市でも地域づくりの見直しをしているところと思うが、各団体が個々に活動するのではなく、それらが一括りになって大人たちが寄り合って、昔のおじいちゃん、おばあちゃんが集まって子どもたちのために何かをするというような考え方でいたいと思った。

今後は西条市でも、コミュニティスクールという、地域の皆さんにお世話になって学校運営をしていく流れになってきている。そのような面から考えても、団体ではなく地域で子どもを育てるということを、私も学校教育の立場を卒業して社会教育の立場に変わっていくということで、しっかりと支援ができればよいと思う。

子どもたちのケース会議の折には、放課後等デイサービスの事業者も来てもらい、一緒に子どもをどう育てていくかということも支援してもらっている。今後とも、

就学前から中高生まで地域でみることができるような西条市であればよいという感想を持った。

- **会長** 地域で子どもを育てるということについて、私が小さい頃は、走り回っておじさんに怒られた思い出もある。しかし、今の子どもたちは、ゲームやスマホなどもあり、外で近所の子が走ったりすることが本当に見られなくなった。また、そのような田畑もなくなったということを出した。地域の大人も頑張って子どもを育てるということに大事にしていきたいと思う。
- 

**閉 会**

午後 8時30分 閉 会